

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学
医療薬学科
薬物治療学研究室
田中 怜

作成日 2025 年 4 月 25 日

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部 医療薬学科

名 前 田中 怜

作成日 2025 年 4 月 25 日

1. 教育の責任

現在までに担当した科目および卒後研修を含めた教育活動(科目名、必修・選択、学年等)を以下に示す。

2023 年 1 月:レポートの量的分析の具体例 (医療事故・紛争対応研究会 卒後教育)

2022 年 10 月:緩和薬物療法における薬剤師の役割と服薬指導の実践 (がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会 卒後教育)

2022 年 10 月:がん患者の化学療法フォローアップ～はじめの一步～ (栃木県薬剤師会 生涯学習研修会 卒後教育)

2022 年 6 月:まるわかりがん薬物療法の副作用対策 (メディカルナレッジ 卒後教育)

2022 年 4 月:アカデミック・ディテナー養成プログラム D:臨床論文の薬学的吟味 & 論文吟味レクチャー (日本アカデミック・ディテリング研究会 卒後教育)

2023 年 4 月:薬学総合プレ研究 (必修 3 年)

2023 年 9 月:実務実習事前学習Ⅰ (必修 3 年)

2024 年4月:処方解析演習 (必修 4 年)、実務実習事前学習Ⅱ (必修 4 年)、卒業研究Ⅰ (課題解決型薬学研究・基礎と応用)

2024 年9月:薬物治療学Ⅴ (必修 4 年)、実務実習事前学習Ⅲ (必修 4 年)

2025 年 3 月:ベーシック教育セミナー 疼痛マネジメント(非オピオイド鎮痛薬・鎮痛補助薬) (日本緩和医療薬学会 卒後教育)

2025 年4月:病院実務実習 (必修 5 年)

私の教育責務は、自らの専門領域とする臨床薬学、特にがん化学療法や緩和薬物療法に関わる多職種チーム医療や基礎薬学も含めた実践薬学について、広く教育することである。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念として、以下に示す3つの能力を兼ね備えた真に臨床に強い薬剤師を育成することを目標としている。ここで必要な3つの能力とは、①薬物治療計画を構築するための臨床エビデンスを収集できる能力、②明確な臨床エビデンスのない場合、受容体親和性や薬物動態といった基礎薬学に立ち戻り最適な薬剤を提案できる能力、③エビデンスのない現状を課題ととらえることができ、解決に至る臨床研究あるいは基礎研究を立案できる能力と考えている。現在、病棟や在宅医療に向かった薬剤師業務の大半は、医師の処方の用量・併用

禁忌の再確認や、看護師に依頼された薬剤指導が大半であり、薬剤提案をしようにも適応のある同種・同効薬の差異が分からない、治療ガイドラインの存在すら知らない、目的の情報を調べられないという現実がある。医師や看護師の業務を軽減するという形のみならば、臨床に役立つ薬剤師であると肯定的に見ることも可能だが、6年間の長期に渡る薬学教育を受けた薬剤師の仕事としては少なからず落胆を覚える現状である。そこで、上記の能力を確立し薬剤師ならではの薬物治療の提案を行える人材を育成したいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私は2006年に薬学部6年制の1期生として入学し、当時の薬学教育の理想とされていた、①基礎と臨床の融合した薬学知識を持ち、②チーム医療に貢献できる薬剤師を目標として研鑽を積んできた。その過程として、新規抗がん剤の創薬基礎研究に3年従事した後、臨床に場を移し静岡がんセンターがん専門薬剤師レジデントとして入職した。レジデント教育を受けらる中で、緩和薬物療法に特に興味を持ち、オピオイドをテーマとした臨床研究を行い医療薬学指導薬剤師などの認定資格を取得した。2019年からは新人薬剤師の教育担当も兼任し、カリキュラム作成や座学講義、実地研修を指導してきた。しかし、臨床で薬剤師が活躍するための手段であるはずのコミュニケーション能力の向上が、臨床教育の目的と化してしまい、本来の目的である医師や看護師にない薬学的知識の供給という部分が薄れてしまっていることを現状の薬学教育の問題と感じている。新人薬剤師は、「薬剤師とは病棟に向かい他職種や患者に接するべき」と年々意識が高まっており、そのこと自体は素晴らしく、これまでの薬学教育の賜物と考えているが、1)で述べた通り現状の薬剤師業務の改善と職域の拡大を図らなければならないと感じ、このような理念を持つに至った。

3. 教育の方法・戦略

I 教授方法

臨床現場経験を生かした実践的な薬剤師な教育を行う。先に述べた真の臨床能力を持つあるいは持つために自ら成長できる薬剤師を育成するための目標として、①基礎薬学がどのように臨床現場に応用されるか症例を交え、その重要性を教育する、②事前実習および実務実習にて、現在の各疾患の薬物治療における不明点・限界点を見つけられるよう指導する、③見つけた不明点・限界点を課題と捉え、卒業研究により問題を解決する能力・経験を取得させる、の3つを掲げ教育を行っていく。

II 授業の工夫

薬剤師国家試験に耐える薬学的知識、および複合問題を解くために必要な理解・判断力を養うため、講義内で国家試験問題を提示し到達点の理解、成功体験をつけるようにする。また、症例のグループディスカッションなどを行い、応用力を高める。

III 開発した教材

私は今年度から始めて大学教員として着任したため、学生教育用の資料は開発していないが、卒後研修である薬剤師レジデント制度に関するカリキュラム・教育スケジュールの作成

や、レジデント SBO と課題レポートのルーブリック評価の制定、研修修了に関する最終評価表などを開発している。

IV 授業以外の諸活動

授業以外の社会活動としては、以下の通り行っている。各学会の代議員、委員等を努め、薬学研究の推進や卒後研修に携わり、医療の質的向上に尽力している。

(学会等委員)

日本医療薬学会、代議員、日本緩和医療薬学会、評議員、日本緩和医療薬学会、先端学術緩和医療薬学タスクフォース 委員、日本がんサポーターシップケア学会、新規医療情報委員会 委員、日本アカデミック・ディターリング研究会、臨床エビデンス部会 副部長

V 自己研鑽

以下の専門・認定資格を維持するために、学会セミナーの受講等を積極的に行っている。研鑽の結果は、授業・実習等へ積極的に還元する。

(主な認定資格)

日本医療薬学会 指導薬剤師、日本医療薬学会 専門薬剤師、日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師、日本緩和医療薬学会 麻薬教育薬剤師、日本アカデミック・ディターリング研究会 アカデミック・ディターリング認定薬剤師

4. 学習成果

3.に示した薬剤師レジデント制度に関するカリキュラム・教育スケジュールの作成により、4名の薬剤師が外来がん治療認定薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)の取得に至っている。また、研究指導した 6 名の薬剤師が筆頭著者として査読付き学術論文を掲載している。その他に、新人研修の評価システムを実施後、早期(2 年)退職率を大幅に改善させた(60%⇒8%)。

5. 改善のための努力

これまでに携わった卒後研修の経験から、これからの学部教育に必要な要素を考え、卒業および薬剤師免許取得後にスムーズな卒後研修へ移行できるような教育を提供してゆきたい。具体的には、これまで参加していなかった日本薬学会や日本薬学教育学会などの教育系セミナーがあれば参加したいと考えている。

6. 今後の目標

短期目標

担当する薬物治療学講義の学生への学習効果の向上を目指す。具体的な数値目標として、模試等の成績が全国平均以上に到達するよう工夫する。また、卒論研究の実施体制を整え、研究を通じた問題解決能力を取得させる。

長期目標

本学卒業生が神奈川県地域医療を担う薬剤師として活躍することを目標としている。特に病院薬剤師の不足が懸念されているので、その充足率向上に寄与したい。また、卒業後も大学と連携を保ち、共同して研究や教育を行える薬剤師を育成したい。